

# 鹿児島市歯科医師会・鹿児島県歯科衛生士会 合同研修会

## ～口の中はふしきがいっぱい～ なぜ口腔機能発達不全症が増えるのか？

日時：令和6年2月18日(日)10:00～12:30

場所：鹿児島県歯科医師会館4階多目的ホール

対象：歯科医療従事者

受講料：(会員) 無 料 (会員外) 2,000円

鹿児島県・市歯科医師会非会員(スタッフ) : 5,000円

先着順！

会場：70名

講師

岡崎 好秀先生

1978年 愛知学院大学歯学部卒業

同年 大阪大学歯学部小児歯科

1984年 岡山大学病院 小児歯科講師(歯学博士岡山大学)

2013年 国立モンゴル医学・科学大学 客員教授

【専門】 小児歯科・障がい児歯科・健康教育



現在、乳幼児期・児童期のむし歯は減少したが、新たな問題が増えている。

その代表的なものが口呼吸の増加など口腔機能発達不全症である。私は、長年障害を持つ小児の診療に携わってきたが、彼らにはこれらの問題が非常に多い。その理由として障害による口腔機能の未成熟の問題と考えてきた。しかし、これが一般の小児にも増えているとしたら、それは何を意味しているのだろう。本来獲得されうるレベルまで、小児の口腔機能が発達していないのではないか。

一方、成人期の口腔機能低下症（オーラルフレイル：むせやすい・飲み込み難い・口が乾く・食べこぼしが増えるなど）は40歳代から起こっている。ヒトの体やその機能は、すべてが20歳頃に最高に達する。従って、小児期に機能を高める取り組みが、生涯の健康において重要なとなる。

小児期の“わずかなひずみ”は、次第に拡大し“大きなひずみ”となって現れる。したがってこの“ひずみ”的原因を考え、取り除くことは発達期における重要な課題といえる。

「口は食物が最初に入る場所であるから、食物が変われば最初に変わるのは口ではないか」と思う。かつて乳歯むし歯が多かった時代は、砂糖入りの甘いお菓子が多くなった。現在は、軟食傾向のため歯周病が増えているといわれる。発達期の口腔機能の問題も、これらと同じ現象ではなかろうか。小児の口は、その時代や生活環境を映し出す鏡なのである。

今回は、小児の口腔機能発達不全症、高齢者の口腔機能低下症の原因とその対策について考えてみたい。

公益社団法人鹿児島県歯科衛生士会

お問い合わせ

FAX:099-222-4030(受信のみ) E-mail:info@kdh8020.com



鹿児島市歯科医師会 鹿児島県歯科衛生士会主催

# 歯科衛生士研修会 申込み方法

1. 下記QRコードから申込みフォームへアクセスし、必要事項を記入してください。
2. 申し込みの後、数日でご登録いただいたメールアドレスに受講の可否と、ご入金についてメールが届きます。ご確認ください。
3. 申し込み手続き後1週間以内に返信がない場合は、申し込み手続きに不備がある可能性があります。お手数ですが再度申し込み手続きをお願いします。
4. 参加費の入金が確認されましたら、正式な受付完了となります。
5. 参加費の納入につきましては、お振り込みのみとさせていただきます。  
(振り込み手数料は振込側ご負担をお願いいたします。)
6. お振込の控えをもちまして、領収書にかえさせていただきます。
7. キャンセルによる参加費の返金はいたしかねますので、予めご了承ください。

QRコードを読み取ると本会ホームページに接続されます。  
「研修会のお申し込みはこちらから」をクリックし、お申込みください。

※QRコードでのお申込みが難しい方は  
info@kdh8020.comまでご連絡ください



申込締切日 2月4日(日)

研修単位 日本歯科衛生士会生涯研修単位

「リフレッシュコース 2単位」



← 公益社団法人 鹿児島県歯科衛生士会 入会のご案内 →

入会すると… 令和6年度(R6.4.1～R7.3.31) 会員募集中！！

- ①日本歯科衛生学術大会の参加や認定歯科衛生士取得が可能です。
- ②新卒者会員(令和6年3月卒業、学生部会会員)は本会主催研修会参加費が1年間免除されます。
- ③新卒者以外の入会者には、研修会で使用できる優待券を進呈します。